

バス停タイムス



2022年 1月18日

No.49

発行者

杉澤秀則

編集者

教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

大井基地で働く皆さん、今年もよろしくお祈いします!!

コロナ禍にもかかわらず、年末年始輸送のためにご尽力いただいた仲間の皆さんに改めて敬意を表します。

今年もJR東海労は、大井基地で働く仲間たちの労働条件向上のためにたたかいます。

SEKと年間休日問題で団体交渉開催!!

JR東海労は、新幹線エンジニアリング(株) (SEK) と年間休日をめぐって昨年11月30日に団体交渉を開催しました。

年間休日が減らされる!?

SEKの就業規則では、年間休日が120日となっています。

しかし、第二修繕(仕業検査の担当)に所属する労働者は、基準労働時間が少ないから「特休」を調整するとされて、年間で7~8日間も休日が削減されています。

問題の年間休日について、SEKは、就業規則に謳ってあるから問題ないとし、1勤務で基準労働時間に30分足りないから、15勤務で累計が7時間30分になる。この時点で特休を調整(1日削減)するとの回答でした

一か月変形労働制で「特休」調整はあり得ない!!

労働基準法では、労働時間は「1日8時間、1週40時間」とされ、これを超えれば時間外労働(残業)となります。しかし、一ヶ月単位の変形労働時間制では、一ヶ月以内の期間を平均することにより、1週間当たりの労働時間が40時間以内となるように、日に8時間を超えたり、特定の週に40時間を超えたりすることが可能になります(労働基準法第32条の2)。当然、SEKも残業代を回避するため変形労働制を採っています。

一ヶ月変形労働制は、名前の通り、一ヶ月毎で労働時間をカウントする仕組みです。前の月に週40時間労働より少なかったから、次に月に加算するなどという事はできません。従って、SEKの労働時間も月ごとの精算をしなければなりません。

そうすると、特休の削減など発生しないのです。なぜなら、15勤務で特休を1つ削減するのですから、二暦日にわたる夜勤勤務で一ヶ月に15勤務などできないからです。

この問題に対して、私たちはこれからも改善を求めていきます!

連絡先 JR東海労働組合新幹線地方本部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5 Tel 03-3201-0350

メールアドレス jrcushinkansen@yahoo.co.jp

(GRコードから新幹線地本ブログもご覧下さい)

SMTと休日指定問題で団体交渉開催!!

1月12日、新幹線メンテナンス東海（株）（SMT）と休日・年休の指定のあり方などについて団体交渉を開催しました。

労働基準法では、「法定内休日（公休）は毎週少なくとも1日与えなければならない」、暦日（0時～24時まで）で与えなければならないと定められています。しかしSMTはその公休日に夜勤の勤務0：00～3：50（早出）もしくは0：00～7：30（遅出）の労働を課しています。

「公休^{またが}り時間」とは一体なんなの!?

公休に労働を課している時間帯のことをSMTでは「公休跨り時間」と称しています。しかし、このことは就業規則等のどこにも記載されていないことがあきらかになりました。私たちは、夜勤明けに公休や年休を指定するのは問題であると追求しましたが、SMT会社は問題ないという認識で、対立のままとなりました。

「跨り時間」は公休も特休も休日労働ではないのか!!

公休に「公休跨り時間」があるのに、なぜ特休には「跨り時間」がないのか。就業規則では特休も公休と同じく「休日」と位置づけていることから、休日労働に変わりはないのではないかということも問題にしました。特休の場合も休日跨り時間として手当を支給するべきではないでしょうか。

年休は24時間労働義務を免じる! 公休は暦日付与するものだ!

勤務指定の中で、「夜勤・夜勤明け年休・公休」という勤務指定は、年休は夜勤終業の時間から24時間であり、翌日の公休は暦日付与（0時～24時）だから時間が重なってしまっており非常に矛盾していると問題にしました。これについてSMT会社は答えられず、後日あらためて回答するとしました。24時間以下の年休は年休とはいえません。いったいどう処理するのか注目したいと思います。

適正要員の確保を!!

さらに、欠員状態が連日発生していることについて、適正要員が確保されていないのではないのかと問題にしました。SMT会社は、要員は足りていると回答しました。

これに対し、要員がひっ迫しているため必要な時に年休が入らず、突発で休む人が多くいるという問題を突きつけました。SMT会社は、連日突発休が発生していることを認めましたが、それでも要員は足りているという矛盾する回答でした。

年休は取りたいときに取れるように改善する事を強く訴えました。

働きやすい職場にするために声をあげましょう!

